

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日： 24年10月3日

所属： 教育文化 学部／研究科 国際言語文化 学科・課程・選修／専攻 1年

氏名：柴田朱里

派遣先大学名(国)：ビクトリア大学 (カナダ)

在籍身分：短期語学研修

派遣期間：1か月

渡航年月日：2012年9月3日

帰国年月日：2012年9月30日

○派遣先大学における授業等の履修状況

(履修した講義名, 講義の履修期間, 週当たりの講義時間, 修得単位数などを確認できる成績表(写)等の添付)

講義名：Monthly English Program

履修期間：平成24年9月4日～9月27日

講義時間：月～木曜日:9時～15時、 金曜日:activity

【以下について, 様式任意 1,000字程度】

○研究・学習概要及び今後の勉強計画

(受講した講義の内容, 留学したことを本学での卒業論文や将来に向けてどう活かしていくか等)

今回私たちが受講したプログラムは全部で5クラスに分かれて、1クラス約15人前後の編成となっていました。講義内容としては主に教科書のトピックに沿って新しいボキャブラリーを学び、実際にスピーキング練習で意見の交換や、今までに習った文法を改めて丁寧に学び実際にペアワークでその表現を使って練習をすることもありました。もちろん先生は外国人なのですべて英語での授業となるわけですが、興味深かったのが新しいボキャブラリーを覚える際に辞書で日本語訳をみるのではなく、先生がほかの表現や類義語を通して私たち生徒に単語を「英語によって」理解させている点でした。1つの単語だけでなく関連したほかの単語も覚えることができ効果的だと感じました。

また、授業のほとんどは先生から生徒への問いかけで、文法を教えるにしても一方的なものではなく質問と発言の繰り返しといった形で理解度を確認しつつ授業が進んでいくので、普段日本で受けるような受け身の静かな教室とは正反対でした。さらに、スピーキング練習の中で間違った表現を先生がピックアップし、訂正も私たち自身で行うのでみんなが間違いを共有でき良い勉強になり

ました。

今回の研修により長期留学への視野がさらに定まったので、今回学んだ効果的な学習方法を取り入れつつ長期留学に必要なスコアをとるためにさらに英語学習を続けていきたいと考えます。

○生活面について

(現地の学生との交流, 寮・下宿, 食生活, 習慣の違い・マナーなど)

ホームステイの経験は私にとってとても価値のあるものでした。ホームステイ先の家族は5歳と8歳の子どもと猫を含め、計5人で、両親は日本にALTとして4年間住んでいてたこともあり大の親日家でした。朝食後と夕食後は子どもたちと遊ぶのが日課で子どもたちが私の英語の先生でもありました。家族は湖や海、山といったさまざまなところに連れて行ってきて、カナダの壮大な自然を思う存分体験できたのもファミリーのおかげです。子どもがいる分ホストマザーはいつも忙しそうだったのでできるだけ自分から手伝わせてくれと頼み、小さなことでも常に積極的に行動できたように感じます。最終的に家族からとても感謝されたので、ファミリーの一員としてもためらわず、自分から進んで行動することは大切だと実感できました。

食事は肉、魚、野菜が主ですがお米もたまにでました。日本食が恋しくなってもビクトリアにはたくさんの日本食レストランやお店があったので不自由はしませんでした。食事中は会話を楽しみますが、誰かが話している最中に誰かが割り込むことはマナー違反です。またスプーンやナイフを置くにしても音を立てないことであったり、みんなが食べ終わるまで待たないといけなないので食べるスピードにも気を付けないといけなかったりと日本に劣らずマナーには注意しました。

今思うと、カナダでは常に「Thank you」と言うことが日課でした。バスを降りるにしても、買い物の時でも、会話の中でも。カナダ人の優しさは常に感謝の気持ちを持ち続けていることからくるのではないかと考えます。ささいなことですが「Thank you」をいうことが口癖になる素晴らしさを感じました。

○その他留学全般にわたる感想

(写真等があれば添付願います)

カナダはもともと行きたい国であり、今回その夢が早い段階で達成でき、現地で実際に英語を学習できたことに感謝したいです。初めは英語が聞き取れなく、会話に至る前に混乱することもたくさんありました。コミュニケーションにおいて、話すだけでなく聞くという力も大切であることを実感できた瞬間でした。

(様式2)

私のクラスには日本人しかいなかったのですが、ほかのクラスに秋田大学のメンバーを通じて数少ない外国人と知り合い、友達になることができ、またほかのクラスのメンバーとも仲良くなることができました。彼らを通じてホームパーティーに参加しスペイン人の女の子と出会うことができ、インドの教会での儀式に参加しそこで子どもたちに日本の文化も紹介でき、バンクーバーにも行くことができました。仲間の広がり、新しい出会いを生み、わたしの短期留学はさらに充実したものとなりました。英語の学習以外で家族と友達という存在の大きさを学ぶことができたと思います。

今回の留学で得たものは、主に自信と出会いと新たな目標です。今までも長期留学という目標はありましたが、実際に実現できるかどうかわからず、海外経験もないのであいまいな展望でした。しかし、今回の経験により「実現する」という明確な目標に変わったことで日本に帰ってからの具体的な行動が描けたことがなによりも大きかったような気がします。もちろん課題もたくさん見つかったことも事実です。それらを一つずつ消化していくためにもこれからやらなければならないことはたくさんありますがそれが重荷ではなくなったことも事実です。

最後になりましたが、今回の留学に至るまでにサポートしてくださった方々とたくさん経験分かち合うことができた秋田大学の素敵なメンバーに大いに感謝したいです。



↑Fort Rodd Hill にて



↑クラスのメンバーと



←秋田大学メンバーと

(様式2)

※報告書は、派遣先大学における授業等の履修状況を除き、国際交流センター
刊行物（Webサイト含む）に公開を予定しております。